

大会特別規程

- 1 出場チームは、試合予定時刻30分前までに球場に到着し、その旨を大会本部に届けること。
- 2 その日の第1試合は、試合予定時刻30分前に、第2試合以降については、前試合の4回完了後に、各チームの主将は所定のメンバー表4通を大会本部に提出すること。
- 3 試合中、登録メンバー以外の者はベンチに入ることはいできない。
- 4 シートノックの時間は5分とする。ただし、日程消化の都合上、時間を短縮することがある。
- 5 ベンチサイドは、抽選番号の若いチームを一塁側とする。
- 6 ファウルボールの処理は、両チームが行う。審判へのボール渡し等のボールボーイの役割は当日一塁側ベンチのチームが行う。
- 7 熱中症防止のため4回終了時に給水タイムを設け、グラウンド整備を行う。
また、暑さ指数(WBGT)が31以上のときは、イニングの途中でであっても中断する。暑さ指数(WBGT)が28以上のときは、2回、4回、6回裏終了時に給水タイムを設ける。
- 8 熱中症防止のため、守備時間が長引いた場合、イニングの途中でであっても給水タイムを設ける。(20分を目安として本部で判断し、打者のプレー完了後にタイムを設ける)
- 9 投手の投球数は1日100球までとする。(タイブレーク方式も含める。)ただし、投球数が100球に達した打者までは、100球を越えて投球してもよい。
- 10 試合は、7イニング制とする。ただし、一回戦は90分7イニング制とする。(90分を越えて新しいイニングへ入りません。) *守り負けあり
また、試合終了時点で同点の場合は、タイブレークを適用する。
＜タイブレーク＞
 - (1) タイブレーク前の回からの継続打順とし、無死1・2塁の状態で1イニングを行い、得点の多いチームを勝ちとする。
 - (2) 1イニングで決着がつかない場合は、継続打順でもう1イニングを行う。それでも決着がつかない場合は、抽選により勝敗を決定する。ただし、決勝戦については、勝敗が決するまでタイブレークを繰り返すこととする。
- 11 審判への申し出は、主将及び当該プレーヤーに限る。
- 12 伝令等によるタイムの制限は、次のとおりとする。
 - (1) 守備時に伝令等がマウンドに行ける回数(捕手を含む内野手が2人以上マウンド

に集まる場合を含む）は、1試合に3回までとする。ただし、延長戦の場合は、それ以前の回数に関係なく、1イニングにつき1回とする。

(2) 攻撃時の打者及び走者に対する伝令等は、1試合に3回までとする。ただし、延長戦の場合は、それ以前の回数に関係なく、1イニングにつき1回とする。

13 本大会において適用するコールドゲームは、次のとおりとする。

(1) 5回以降7点差以上を生じたとき。ただし、決勝戦に限り、この規定は適用しない。

(2) 降雨・日没等により競技の続行が不可能となり、審判員が試合の打ち切りを命じた場合は、両チームとも5回の攻撃を均等に完了するか、または先攻チームが5回を終えた得点より、後攻チームの4回までの得点が多いときは、コールドゲームとする（5回を終え、同点の場合は、抽選により勝敗を決する）。

14 試合中、突発事故が生じ、一時走者を代えたいときは、審判員に必ずその理由を申し出ること。審判員は、その必要を認めた場合は、ラインアップ中の特別走者を認めることができる。

15 登録は、部長及び監督各1名、選手20名以内とする。

16 登録メンバーの変更は、開会式開始前までに大会本部へ提出すること。

17 新型コロナウイルス感染症の感染対策は、「個人の選択を尊重し、個人や事業者の自主的な取組をベースにしたもの」となりましたので、必要に応じて別途案内するものとする。